

## 新鶴子ダム流域の水田水温と気温・日照時間の関係（1996年）

早期警戒情報においては、気温・日照時間・降水量が冷害危険度地帯別に過去7日間の移動平均で示されています。これらのデータと水田水温（午前9時測定）との関係を整理してみました。新鶴子ダム流域にもっとも近い監視地点アメダス尾花沢を使用しました。

1996年度は水温測定が日単位で測定されたため、過去7日間の移動平均を用いて関係を図示することにします。

### 1) 日最高気温と水田水温の関係（図1参照）

- 最高気温が25度を超えたのは7月1日で、幼穂形成期より早い時期にあたる。
- 6月上旬に著しい低温が入ったが、水田水温は20度以上であった。

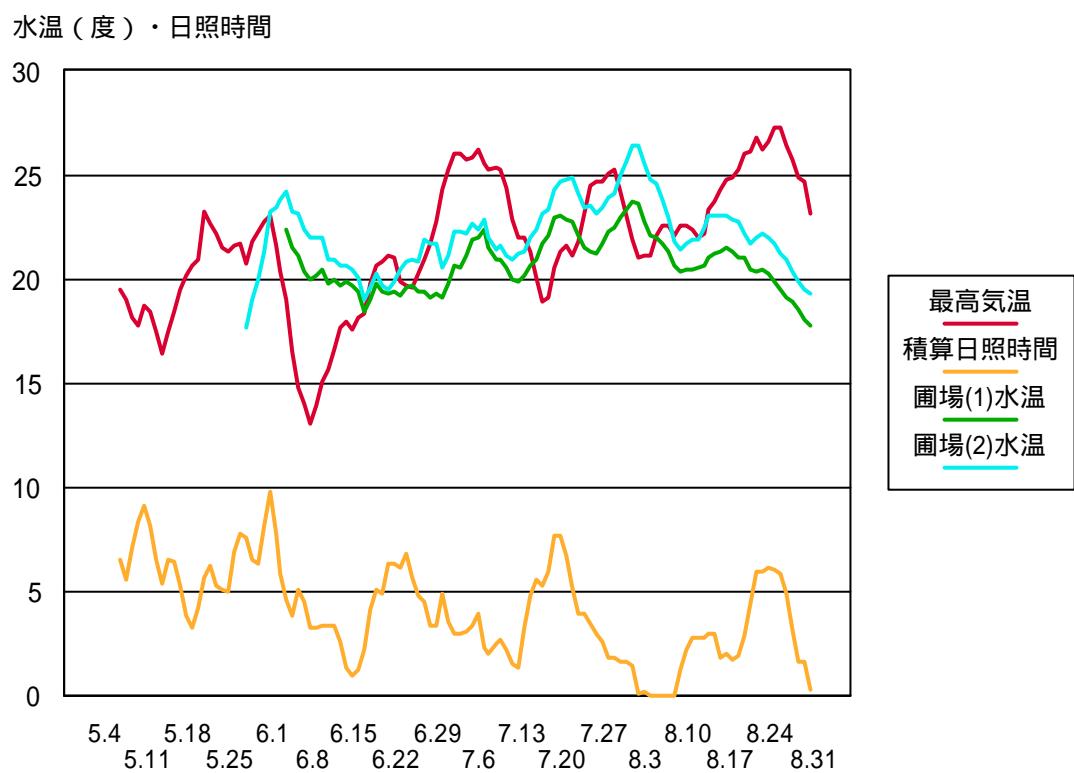


図1 アメダス尾花沢の最高気温と水田水温(午前9時)の推移  
1996年度  
過去7日間の移動平均

### 2) 日最低気温と水田水温の関係（図2参照）

- 最低気温が17度を超えたのは7月2日で、幼穂形成期より早い時期にあたる。
- 水田水温は全期間を通して最低気温より高く、5, 6月の生育初期においてその差が大きい傾向がみられた。

- ・最低気温が6月上旬に10度程度となったが、日照時間が比較的多かったため、水温は20度程度あった。
- ・最低気温が7月中旬に12度程度まで下がったが、水田水温は20度を超えて維持されていた。

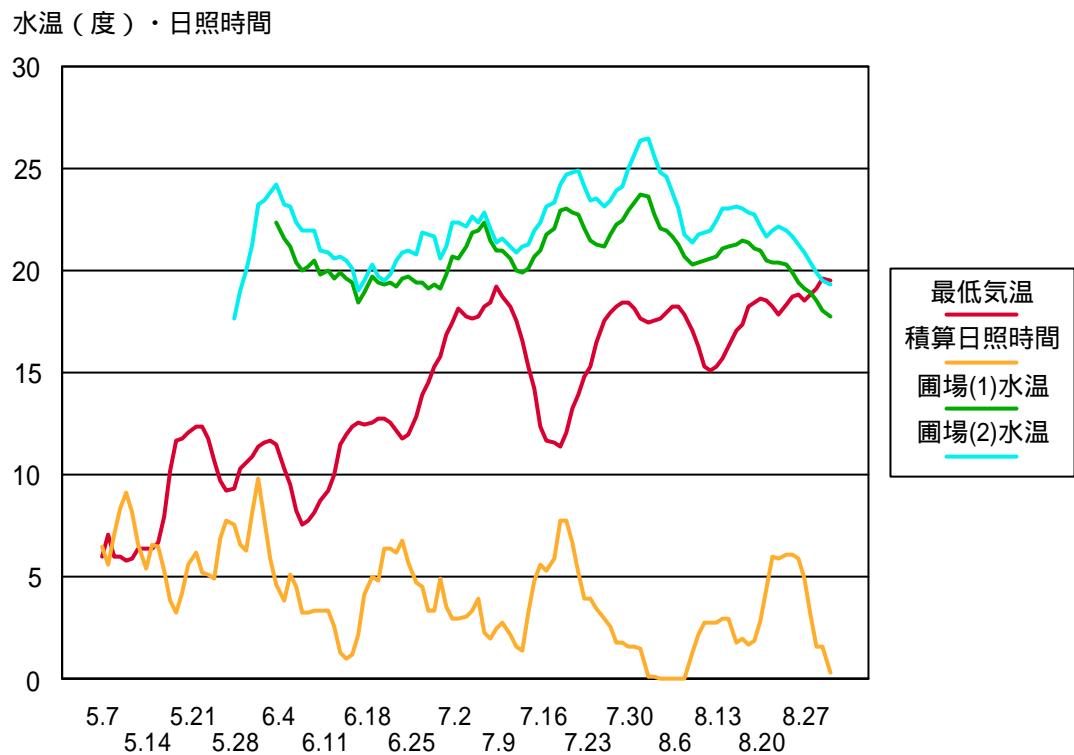


図2 アメダス尾花沢の最低気温と水田水温(午前9時)の推移  
1996年度  
過去7日間の移動平均

### 3) 日平均気温と水田水温の関係(図3参照)

- ・平均気温が20度を超えたのは6月30日で、幼穂形成期より早い時期にあたる。
- ・平均気温は6月上旬に10度前後、また7月中旬に15度前後まで下がったが、水田水温は20度以上を維持されていた。

水温(度)・日照時間

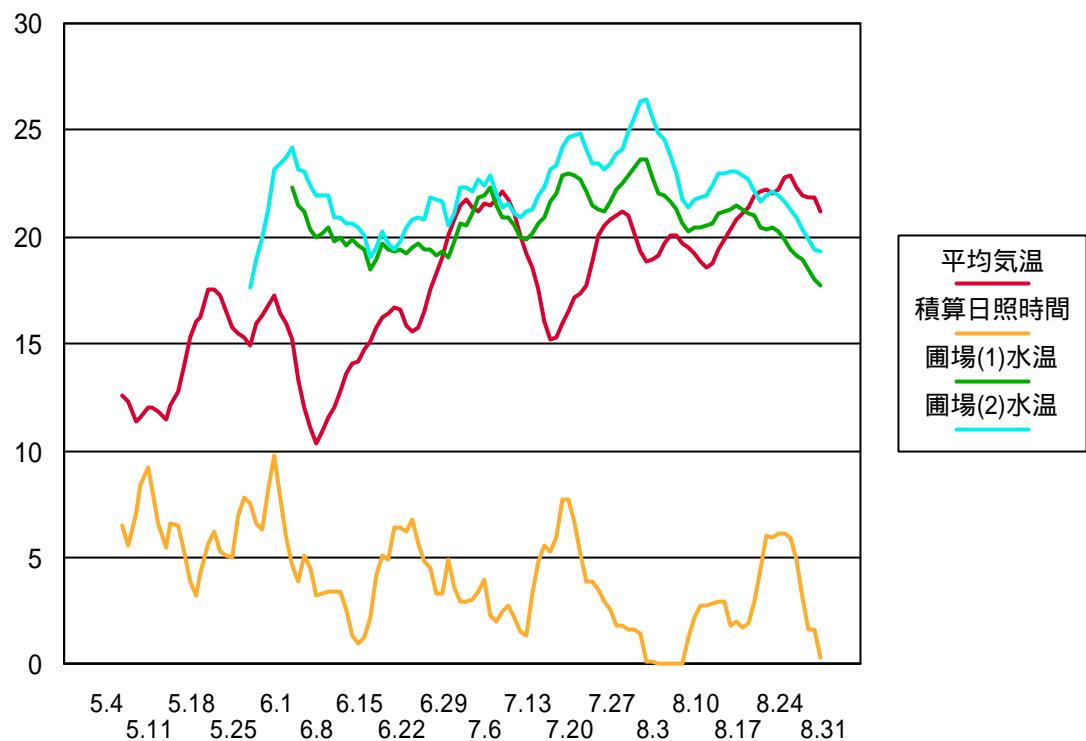


図3 アメダス尾花沢の平均気温と水田水温(午前9時)の推移  
1996年度  
過去7日間の移動平均